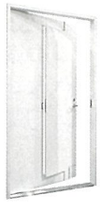
三和シャッター

火を通さず、人を通す。

防火設備として鋼製防火ドア、防火戸が持つ役割は、
施設を利用する人々の安心・安全をサポートすることです。
三和シヤッター工業は、優れた防火性能、消火や避難に関わる
安全性能を追求した商品を開発・提供していきます。

開放力軽減機構付鋼製ドア

エアローテ



加圧防排煙方式採用による円滑な消火活動を実現。

機械給気により、煙から保護したい空間の圧力を上昇させ、煙の侵入を防止することで避難経路や消火活動拠点を保護します。

開放力軽減機構により軽い力で扉を開放。

●火災発生時の開閉の流れ

1 火災が発生すると、電気ストライクが解錠され、戸先扉と戸尻扉の連結が解除。

2 戸先扉が回転して開き、戸先扉と枠および戸尻扉との間に隙間ができ、圧力差を解消。

3 圧力差が解消し、100N以下の軽い力で扉を開放。

4 通過後、扉を離すと戸先扉は閉鎖し、戸尻扉と一体となり閉鎖。

耐熱合わせガラス入りステンレス製自動ドア

ファイヤードS オートドア 避難用開口付き

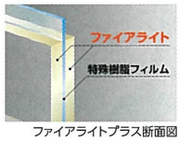
特定防火設備

避難開口部に設置可能。

引き戸部分に避難時に使用できる開き戸を組み込んだため、防火区画の避難時開口部の自動ドアとして設置することができます。

防火安全ガラス「ファイアライトプラス」を採用。

超耐熱結晶化ガラスを特殊樹脂で貼り合わせた「ファイアライトプラス」を採用し、耐熱衝撃性および衝撃安全性を追求しました。



ファイアライトプラス断面図

三和グループ 三和シヤッター工業株式会社 03-3346-3011

建材情報 2020年7月1日発行 第475号（毎月1回1日発行）

雑誌コード 1967-2007

2020年7月1日発行 第475号（毎月1回1日発行） ISSN 2432-2873

特集：戸建・スチールドア

建材情報 No.475

三協アルミ

引戸って、ナンカ新しい。

機能的＆省スペースなのが日本的でいい、
自由な暮らし方に、ふしぎと馴染むからうれしい。
“次にくる”玄関には、スライディングドアだね。

FANOVA SD スライディングドア

三協立山株式会社 三協アルミ社 https://alumi.st-grp.co.jp/

会員を取り巻く状況については、東京オリンピック・パラリンピックの開催前の建築業界の活況に伴い、業績はおおむね堅調に推移していくとも考えられるが、COVID-19（新型コロナウイルス）の流行などを背景に景気に不透明感があり、業績も流動的になると考えられる。

計画の概要は以下のとおり。

第1章　定常的事業

1　調査研究普及事業

(1) 調査研究▽(2) 技術基準等の策定▽(3) 製品安全への取り組み▽(4) 維持管理における安全対策の推進▽(5) 資料収集・普及事業

2　評定登録講習事業

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等▽(2) シャッター及びドアの保守点検に関する人材育成▽(3) 防火設備検査員講習における実技講習の実施

第2章　特別事業

1　シャッター及びドアのストック対策の推進▽2　技能検定制度導入への取り組み▽3　シャッターJIS改正▽4　会員サービスの取り組み

◎長住協
沼崎新会長のもと第7期がスタート

長期使用住宅部材標準化推進協議会（長住協、CjK）は、2020年5月28日より沼崎秋生（住友林業㈱ 執行役員 住宅・建築事業本部副本部長）が新会長に就任し、以下のように挨拶した。

長住協の沼崎秋生新会長

「当協議会の活動は、持続可能な開発目標（SDGs）の『豊かで活力のある未来を創る』『持続可能で多様性と包摂性のある社会実現』、また令和新時代のグローバルな環境社会を強く意識したSociety5.0の安全で安心な暮らしの実現と経済社会基盤確保、住生活基本法計画の安心して暮らすことができる住生活の実現、住宅ストック活用型市場への転換、住生活を支え、強い経済を実現する担い手としての住生活産業活性化と課題解消等、社会に貢献する活動でもある。

当協議会は、今後も精力的に会員及び・長期使用対応部材（CjK部材）品目の拡大を目指し普及促進に取り組んでいく。」

なお、第7期の活動方針は以下のようになっている。

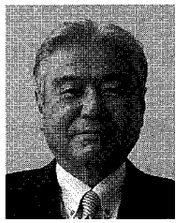
1．次期ロードマップ策定と事業計画を達成すべく各事業分科会の活動支援

2．CjK部材の採用・供給交換体制における表示事案に関して適正な運用・推進実施

3．他団体との協業推進、展示会への出展等により一般消費者を含めたより一層の普及促進を図る

◎建産協
新体制が決定
新会長に大建工業億田社長

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会は6月10日、2020年度定時総会を開催し、終了後の臨時理事会で新体制を決定した。会長・副会長は次のとおり。


建産協の億田正則新会長

会長：億田正則氏（大建工業代表取締役社長執行役員）

副会長：道浦正治氏（パナソニック ライフソリューションズ社 社長）、島村琢哉氏（AGC代表取締役社長執行役員）、瀬戸欣哉氏（LIXIL代表取締役会長兼社長兼CEO）、喜多村円氏（TOTO代表取締役 会長兼取締役会議長）、山下清胤氏（三協立山 代表取締役社長）、堀 秀充氏（YKK AP代表取締役社長）

本年度は6つの重点課題に取り組んでいく。

①グリーン建材・設備製品に関する国際標準化事業▽②IoT住宅普及に向けた住宅設備機器連携の機能安全に関する国際標準化及び普及基盤構築事業▽③リフォーム推進事業▽④情報提供事業▽⑤ZEH・断熱材の普及促進事業▽⑥品質・環境事業

◎日本木製サッシ工業会
19年度生産販売実績
前年比11.6%減

日本木製サッシ工業会が6月17日に発表した19年木製サッシの生産販売実績（1～12月）は、前年比11.6％減の13,629セット。この調査は、会員14社にアンケートし、申告があったものを集計したものであるが、18年までは木造活用という追い風もあって着実な伸びを示していたが、19年は予想外の結果に終わった。

木製サッシは、窓枠とガラス戸が一体になって造られた木製の窓（アルミ複合製品も含む）。15年の12,653セット→16年14,420セット→17年14,873セット、18年15,421セットと着実に伸びていた。国の施策も公共建築物の木造化という後押し、さらに環境問題・省エネが求められるようになっており、木製サッシは新たなステージに立ったのは間違いない。

今年度は一般ユーザーへの木製サッシのアピール強化、準耐火建築における防火設備仕様の普及版についての研究開発をさらに進めることにしている。

◎全国自動ドア協会
据付台数19年度1.7%増
関東はビル用11.1%増

全国自動ドア協会（JADA）がまとめた2019年度自動ドアの据付台数は1.7%増の136,380台、5年連続の増加。ビル用が5.2%増の72,105台、ストア用1.5%増の51,726台、産業用14％減の12,549台。17年度、18年度好調だった産業用が失速、代わってビル用が伸長、けん引した。19年度は、オリンピック関連工事や大型都市再開発物件の竣工が相次ぎ、ビル用が大きな伸びを示した。

地区別の動向は、北海道5.8%増、関東4.8%増、関西4.8%増、中部1.9%増、甲信越0.3%増、と5地区が前年を上回ったが、残る5地区は前年割れとなった。ビル用は関東の11.1%増が突出しており、ビル用の38.9%を占めている。

リニューアル（取替台数）は1.8％増の46,732台。7年連続の増加。リニューアル率は34.3％に上昇した。15年度に初めて30％台に乗せ31.7％→32.9％→33.4％→34.2％→34.3%と着実な伸びを続けている。

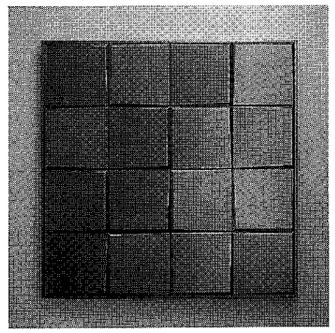
20年度については、新型コロナウイルス感染拡大により、建築現場の遅れやリニューアル市場の冷え込みなどが懸念されるが、現段階では見通しが不明のため、その影響を考慮せず、国内向け据付台数は19年度と同数の13万7,000台とした。

◎アイジー
アルミとチタンの金属仕上げ材「Xium」

アイジー工業は6月5日、KEN OKUYAMA DESIGNとの共同開発プロジェクトで挑戦してきた新商品「Xium」（エクシウム）を発売した。商品名の「X」にはKEN OKUYAMA DESIGNとの共同開発を、「ium」には素材のチタンのチタニウムとアルミニウムの韻と、Innovative unit materials（革新的で組合わせて使う材料）の意味も込めた。

「Xiumアルミ」はアルミならではの柔軟な成形性を活かし、曲面とテーパー面による立体感のある形状とし、豊かなテクスチャー表現を可能としている。「Xiumチタン」は、チタンの持つ表面の質感を活かし、角度をつけたフラット面を組合せた端正な形状とし、張る向きによって繊細な陰影が生まれ表情が変化する。

「Xiumアルミ」「Xiumチタン」どちらも張り方によって、規則正しくもランダムにも建物の表情を変える事ができるのと同時に、時間や季節によって変わる陽の光を受け、刻々と光沢と陰影を変化させ、豊かな表情を映し出す。いにしえから日本


Xiumチタン
4枚×4枚、ランダム張り